

# 2002年度前期授業の実践報告

森 谷 公 俊

## 目 次

- 1 授業の基本方針
- 2 欧米文化（総合基礎科目）
- 3 史学概論（史学科2年必修）

### 1 授業の基本方針

私が帝京大学史学科に着任したのは1992年4月のことで、今年で11年目になる。これまで10年間の試行錯誤をとおして、自分が史学科の学生に何を教えるべきなのかがやっと明確になった。端的に言えば、第一に日本語力の向上、第二に教養としての歴史学である。

まず日本語力の向上について。学生の日本語力の低さについては今さらくどくど述べるまでもないが、問題なのは、単なる学生言葉の氾濫とか漢字が書けないといった単語の次元ではなく、論理的な文章が書けないこと、つまり思考力にかかわる部分である。誰が何をどうした、何が誰によってどうされた、という文章の基本形がまともに書けない。その背景には、学生がふだん接する日本語のお粗末さ、言いかえれば言語環境の貧しさがある。新聞を毎日読む学生は一割ほどにすぎず、テレビのニュースも他の番組の合間にたまたま見るだけという程度では、論理的にしっかりした書き言葉としての日本語に接する機会は絶望的なまでに少ない。識者の中には、今の学生はメールのやりとりのおかげで、むしろ一般の大人よりも書き言

葉に慣れている、という意見の持ち主もいる。しかしメールの相手は気心の知れたごく少数の友人にすぎず、論理で説得しなければならない不特定多数ではない。大学の授業で教えるべきなのは、不特定多数の人々を説得できるような、明晰で筋の通った言語表現の技術である。

そこで実際の授業では、そうした言葉のお手本を示すことから始めねばならない。では文庫本やプリントという形でテキストを与えればいいかという、それだけでは足りない。教師自身がそれを読み上げて、文章の一字一句を学生の頭のなかに届ける必要がある。つまり読み聞かせが必要なのだ。プリントを配ってこれを読んでおきなさいというだけでは、少なからぬ学生がまともに読まないままに終わったり、一人で読んだだけでは十分に理解できない場合がある。その結果、きわめて不十分な読解のままです試験に臨み、ろくな答案も書けないことになる。テキストを学生にじっくり味わってもらおうと思えば、教師自らが読んで聞かせる以外にない。こうして私は昨年度から、意識的に朗読を授業の柱にすえることにしたのである。なおこの方法は、林望『知性の磨きかた』(PHP新書)からヒントを得た。

第二に、教養としての歴史学について。本学史学科の学生の大半は、歴史が好きでこの学科を選んだわけだが、かといって将来にわたって歴史学を職業とするわけではない。もともと本学の基本は実学にあって、研究者養成を目的としておらず、史学科には大学院もない。かなりの学生が教職・学芸員・図書館司書の資格を取得していくが、実際にそうした職につけるのはごく少数で、最近では例外的とすら言える状況である。結局大半の学生が、直接には歴史学とかかわらない職業につく。ではそうした彼らにどのような歴史学を学んでもらえばいいのか。専門的な授業は特殊講義や演習でやればよいとして、史学概論や総合基礎科目(一般教育)での歴史学は、古典を中心とした基礎的な教養を柱にすえるべきだと考える。高校の日本史・世界史教科書に出てくるような著名な思想家の作品にじかに接すること、単なる紹介や解説を聞いてノートにとるのではなく、原典に触れることが何よりも大切なのである。これは何も古典に限らない。後に紹介

するように、史学概論で現代の日本を取り上げる際にも、日本国憲法・サンフランシスコ講和条約・日米安保条約といった、日本国家の骨格を構成している基本文書をじかに読むことを必須としている。私が学生の頃には、On Marx でなく By Marx を読めと言われたものだが（マルクスについての解説書でなく、マルクス自身が書いた著作をじかに読め、という意味）これを今になって教師として実践しているというわけである。

以上が私の授業の二大方針である。次節以降で、二つの授業の具体的な内容と結果を述べることにする。

## 2 欧米文化（総合基礎科目）

一般教育の西洋史にあたる授業で、履修者はすべての学部・学科にまたがる。週1回の授業で、前期2単位、後期2単位。1年生が多目だが、2・3年生も少なくない。01年度から、古典のテキストの読み聞かせというやり方を採用したところ、学生数は大幅に減った。2年続けて、履修届けを出したのは100人以上なのに、2回のレポートを提出したのは30人ほどである。この授業をあっさり捨てた学生たちはおそらく、この先生はテキストを読むだけでつまらないと思ったのだろう。先生が板書し、生徒はひたすらノートにそれを書き写すという授業スタイルが、小学校以来からだに染み込んでいるため、テキスト朗読の意義がわからないまま見かけの印象だけでやめてしまったらしい。もったいないことである。

まず4月の最初の授業で配ったプリントを転載する。

### 【プリント第1頁】

2002年度（前期）欧米文化II 講義日程

4 / 18 オリエンテーション & 古代ギリシア史概略

25 アイスキュロス「アガメムノーン」(その1)テキストを必ず持

参すること

(ギリシア悲劇概説を含む)

- 5 / 2 アイスキュロス「アガメムノーン」(その2)  
9 アイスキュロス「アガメムノーン」(その3)  
16 アイスキュロス「アガメムノーン」(その4)  
23 ソポクレス「オイディプス王」(その1) 第1回ミニレポート  
提出  
30 ソポクレス「オイディプス王」(その2) 第1回ミニレポート  
返却
- 6 / 6 ソポクレス「オイディプス王」(その3)  
13 ヘロドトス「歴史」(下巻)(その1) 第2回ミニレポート  
提出  
20 ヘロドトス「歴史」(その2) 第2回ミニレポート  
返却  
27 ヘロドトス「歴史」(その3)
- 7 / 4 ヘロドトス「歴史」(その4)  
11 ヘロドトス「歴史」(その5)  
7 / ? 定期試験(日程は教務課が決める)

【プリント第2頁】

講義の目的について

- ・あらゆる学力の基礎は日本語がきちんと読めることである。この授業では、西洋の代表的な古典作品を自分の目で読み、自分の頭で考える力をつけること、それによって受験型の勉強を卒業することをめざす。

単位について

- ・2回のミニレポートと定期試験の総合成績による

ミニレポートについて

- ・「アガメムノン」と「オイディプス王」について各1回、計2回行なう。
- ・分量はB 5サイズの答案用紙1枚。
- ・すべて添削して1週間後に返却する。出来の悪い答案は何回でも書き直しを命じる。

#### 定期試験について

- ・ヘロドトス「歴史」を題材とする。問題は事前に公表し、持ち込みも自由。そのかわり採点は厳しい。
- ・ミニレポートを一度も提出しなかった者には、定期試験の受験資格を与えない。

#### 授業について

- ・そもそも読書が嫌いであるという者は、この講義を履修しないこと
- ・授業開始時間は、2時35分
- ・板書は必要最小限にとどめる。ノートは自分で取ること。先生が黒板に書いたとおりに書き写すことしかできないというのは、小学生並みである。
- ・私語など、他の学生の迷惑になる行為に対しては、厳しく対処する

森谷研究室：短大2号館地階 0426 - 78 - 3486（直通）

在室時間：火5限・水5限・金4限

履修科目届を必ず提出すること

授業中に携帯電話を鳴らした者は直ちに教室から退去することを命ずる

以上が最初に配るプリントである。

ご覧のように、日程、内容、その他注意事項をすべて記載し、学生が余計な質問をする必要がないようにしている。第2週目からこの通りに進めていくわけだが、2週目、3週目に教室へやって来る学生はもちろん沢山いるし、連休明けどころか6月になって初めて顔を出す学生さえいる。だから、この最初のプリントは少なくとも5月末までは毎週持参して、他の

プリントと共に机に並べるのが通例である。

### 【授業の実際】

ここで5月23日に行なった授業の一部を再現してみよう。

それでは今日からソポクレスの悲劇「オイディプス王」を始めます。ソポクレスの名前は世界史教科書に必ずのっているから、まだ覚えている人もいると思いますが、紀元前5世紀のアテネで活躍した悲劇作家で、この「オイディプス王」はギリシア悲劇の最高傑作と言われているものです。岩波文庫のテキストを出してください。まだ持っていない人は今すぐブックセンターで買ってくるように。

まず目次の次の頁にある地図を開きます。物語の舞台は、ギリシアの中部に位置するテバイ、あるいはテーベという言い方もしますが、アテネの北にある国です。ここはギリシア諸都市のなかでも、とりわけ豊かな伝説に満ちた由緒ある都市で、日本語の古都という言葉が当てはまるような所です。地図の左の頁にテバイ王家の系図があります。主人公はこのテバイ王家の一人オイディプスです。この系図で横の二本線は夫婦関係を表わします。オイディプスの父親はライオス、母親はイオカステなのですが、奇妙なことに、オイディプスとイオカステが二本線で結ばれていて、しかもこの2人から4人の子供が生まれています。つまりこれは母親と息子との近親相姦というわけです。この関係が大変な悲劇を生むこととなります。

次の頁、15頁をあけると、「劇がはじまるまでの出来事のあらすじ」があります。これはもちろん原作にはないのですが、この作品を訳した藤沢令<sup>のり</sup>お夫さんという古典学者が、この本を読む人のためにわざわざ書いてくれたものです。まずこれを朗読します。

「太古のギリシア。ポイオティア平原に位するテバイは、カドモスを建国の祖とし、その血筋を受けるラブダコス王家によって代々支配されてきた由緒ある都であった。……」(15～16頁のあらすじを全部朗読する。)

さて今のあらすじの中に、スフィンクスの謎というのが出てきます。スフィンクスはエジプトの神話の中で、顔が人間の女性、体が鳥という怪物

ですが、これがテバイにいたというのです。このスフィンクスが出した謎の中身は、この本の後ろにある解説に出てきます。145頁を開けてください。5行の詩があります。

一つの声をもち、二つ足にしてまた四つ足にしてまた三つ足なるものが

地上にいる。地を這い空を飛び海を泳ぐものどものうち

これほど姿・背丈を変えるものはない。

それがもっとも多くの足に支えられて歩くときに、

その肢体の力はもっとも弱く、その速さはもっとも遅い

答えはここに書いてあるように人間です。なぜかというと、人間は赤ん坊の時は四つんばいで、成長すると二本足で歩き、歳をとると杖をつけて三本足になるからです。ちょっと笑い話のような謎々ですが、ともかくオイディプスはこの謎を解いて、すぐれた知性の持ち主であることを示し、それゆえにライオス亡き後のテバイで王として迎えられた、というわけです。

以上が物語の前提です。ここから本文に入ります。ぼくはプロの俳優じゃないし、きちんと発声練習をしたこともありませんから、そんなに上手には読めないけれど、何とか芝居らしく聞こえるように朗読してみます。

### プロロゴス

[ 宮殿の扉が開かれ、オイディプス、従者をしたがえて登場 ]

オイディプス わが民らよ、遠き父祖カドモスのはぐくんだ、後裔すえなる子らよ、いかがいたしたのか——かざしをつけた歎願のしるしの小枝を手に手にささげ持って、そこにそうして座っているのは？ それにテバイの都はいま、祭壇さんだんに香たく煙がいたるところにたちこめ、治癒ちゆの祈りと悲嘆の声にみちみちている。わたしはこれがどうした事情わけが、他人の口づてに聞くことをよしとせず、わが民らよ、人みなにその名もかくれもないオイディプスが、みずから直じきじきここへやってまいった。

[ 正面にいる年老いた神官に向って ] さあ、翁おきなよ、話してみるがよ

い。そなたは、ここにいる皆を代表して口をきくにふさわしい者。これにひかえたお前たちの、心のうちを聞かせてくれ。何の憂い、何の願いなのか。このわたしは、どんなことをしてでも、お前たちの助けになるつもり。まことに、もしこのような歎願に心を動かされないとしたら、わたしは血も涙もない男というべきであろう。

ここでちょっとコメントをしておきます。1行目のカドモスとは、さっきのあらすじにも出てきましたが、テバイの国を建てた人物、伝説上の建国の父です。2行目に「歎願のしるしの小枝」という言葉があります。古代ギリシア人は、神々や王に願い事を言う時には、オリーブの小枝を手に持ちました。なぜテバイの民衆がオイディプスに嘆願にやって来たのか、それは次の神官の言葉によって明らかになります。

以上が5月23日の実際の授業の様子である。学生はテキストを開いて、ひたすら私の朗読を聞く。教室は当初150人以上が座れる中規模の教室だったのでマイクを使ったが、学生数が少ないことを確認してからは、短大2号館の小さな教室に変更し、肉声で読み始めた。学生にとっても、マイクなしの生の声で聞くほうが、実際の芝居の雰囲気味わえていいと思う。ただアマチュアの悲しさというか、30分を過ぎると時々舌がもつれ出し、読み直す箇所が現われ、1時間たつと声を出すのがかなりつらくなってしまふ。素人の私には正味1時間が限度のようだ。

テキストを1冊終わるとミニレポートを課す。第1回目の課題はアイスキュロス『アガ멤ノン』で、その内容は次のとおりである。

#### 【第1回ミニレポート課題】

『アガ멤ノン』(岩波文庫)について、次のすべての問に答えなさい。解答にあたっては、テキストだけでなく、久保正彰氏による訳注と解説もきちんと読むこと。



次のクリュタイムストラの台詞はいずれも二重の意味を帯びている。それぞれの表と裏の意味を簡単に書きなさい。単語ひとつで済ませるのではなく、必ず内容の説明を付けること。

例：（アガムノンでなく）トロイ遠征軍の総大将であるアガムノン

- a . 死者たちの痛恨の思い（37頁）
- b . いちばん上等のお出迎え（55頁）

この作品には、当時のギリシア社会の男性中心＝男尊女卑の価値観を反映していると思われる台詞がある。そのような台詞をコロスとアガムノンのそれぞれについて、各1～3行程度引用しなさい。末尾にテキストの頁数を記すこと。

例：（外国人観の表われとして）アガムノン  
異邦人のごとくに、足もとにひれ伏して、

大袈裟な口上を吐くべきではない。（77頁）または（p.77）

127頁でコロスは、「あれを咎めれば、これを咎める言葉の応酬、いくら争っても、決着はつけがたい」と述べている。クリュタイムストラとコロスは、どのような論理でもって互いに争っているのか、113～127頁の内容をふまえて10行程度で具体的に説明しなさい。単なる感想やテキストの丸写しは不可。

#### 注意事項

- ・ 内容だけでなく、日本語力も採点の対象とする
- ・ 出来の悪い答案には何回でも書き直しを命じる。

提出 5月23日（遅れた場合は研究室へ直接届けること）

返却 5月30日

以上がミニレポートの内容である。出題した内容はすべて授業でコメントした箇所ばかりなので、まじめに聞いてメモしていれば十分答えられるはずである。ここではギリシア悲劇について専門家が問題とするような深遠な内容は一つもない。とにかく一篇の文学作品としてきちんとテキスト

を読むことが基本である。

さて提出された答案はすべて添削して次週に返却する。この数年間の経験から、学生が日本語の何でつまづくかがあらかじめ予想できるので、事前に注意をうながす意味もあって次のような文書を課題と一緒に配る。

### 【添削チェックリスト】

答案に下の用紙を付けて返却する。注意すべき箇所がない場合は付けない。

#### 《注意事項》

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 主語欠落             | ①接続詞をきちんと入れる    |
| 主語・述語・目的語の対応が不正確 | ②俗語・学生言葉は使わない   |
| 段落の最初は一字あげる      | ③引用には一重のカギ括弧「 」 |
| 体言止めは避ける。文を完結させよ | ④書名には二重カギ『 』    |
| 文が長すぎて錯綜。短く区切る   | ⑤修飾語が長すぎる       |
| てにをは の使い方が不正確    | ⑥こんな日本語は存在しないはず |
| 文体不統一。「である」調で書く  | ⑦テキストの誤読        |
| 句読点をきちんと付ける      | ⑧ほとんどテキストの引き写し  |
| 漢字が不正確           | ⑨書き出しが唐突        |
| ひらがな・カタカナが不正確    | ⑩説明が舌足らず        |
|                  | ⑪引用に頼りすぎ        |
|                  | ⑫余計な事を書きすぎ      |

#### 《書き直しの指示》

→ 全面書き直し 部分書き直し

再提出(新しい答案用紙を受け取って1週間以内に提出すること)

書き直しの場合にはここに赤丸をつける。

部分書き直しの場合、その箇所を指示する。

書き直しの指示がなくても評価に納得できない時は、自発的に再提出してよらしい。

同一の答案が2枚以上ある場合はカンニングと見なし、別の課題で再提出させる。

友人同士で相談するのは構わないが、答案を書くときは自分一人の力で書くこと。

上に掲載したチェックリストは、実際にはB 6サイズの大きさに、これを答案にホッチキスで止めて返す。具体的な使い方は、たとえば、答案中の主語のない文に対して、該当の箇所に赤ペンで と記し、チェックリストの に赤丸をつける。学生は答案とこのリストを照合して、その文に主語が欠けているという注意をされたことがわかる、という仕組みである。以前はこうした注意事項をすべて手でいちいち書き込んでいたので大変な手間がかかったが、このリストを作ってから随分楽になった。それでも文章全体に対する注意やコメントはやはり個別に手書きでするしかない。結局、添削作業は機械的にはできないということである。

採点欄には、おおまかに、S・A・B・C・Dの五段階で評価を書き込む。Sはめったにおらず、CとDにはかならず全面書き直しを命じる。部分的な書き直しの場合は、冒頭の3行とか、後半だけとか、末尾の2行とか、いちいち指示していく。学生はその部分だけを書きなおしてくればよいが、まじめな者は全体をあらためて直してくる。こうして直された答案をもう一度採点し、たいていの場合には良くなっているから、評価を上げて返却する。私の手元にある履修届けには、そうした過程がすべて記録してあるので、各学生の上達ぶりが一目でわかる。

## 【第2回ミニレポート課題】

ソポクレス『オイディプス王』について、次の問に答えなさい。

次のせりふの意味を2～3行程度で簡単に説明しなさい。

a 「きょうのこの日があなたに出生をあたえ、そしてまた滅ぼすであろう」(52頁)

b 「もしやわしはさいぜん、それと知らずにみずからを、恐ろしい呪いのなかに投げこんだのではあるまいか」(75頁)

c 「あのかたは、・・恐ろしいことを口にする者があれば、ただもうその言うなりに、心を動かしていらっしゃる」(86頁)

イオカステが真実を知るのは、通説によれば、コリントスからの使者とオイディプスとの対話の場面(94頁以降)においてである。これに対して川島重成氏は、オイディプスが自分の身の上話のなかで神託に言及した時(78頁)であると解釈する。通説と川島説のどちらが妥当であるか、その理由を述べなさい。(10~15行程度)

単なる読書感想文ではない。なぜそう考えるのかを第三者に納得してもらえよう、論理的に説明すること。

川島氏の文章を引用するさいは、カギ括弧をつけて自分の文と区別すること。単なる丸写しはもちろん不可。

提出 6月13日または20日

返却 6月13日提出分は20日

6月20日提出分は27日

授業に出られなかった場合は、直接研究室へ届けてもよい(短大2号館地階)

提出日を二通りにしたのは、ちょうど史学概論のミニレポートと重なってしまい、できるだけ答案を分散させたかったからである。

問 については、二つに分かれる解釈のどちらをとるかという問題で、第3回目の授業で古典学者の川島重成氏の著書から関連箇所をプリントし(『「オイディプス王」を読む』講談社学術文庫、124~126頁、145頁)学説の内容をひとつおり説明しておいた。第1回目のレポートが比較的単純なテキストの読みだったのに対し、第2回目では、少しは専門的な研究の実際を知ってもらおうと思い、川島説について自分なりの判断を書いてもらうことにしたのである。こうした証明の文章を書くのはやはり学生には難しいようだったが、授業では論文調の文章の書き方まで教える余裕は

ない。

6月中旬からの5回は、ペルシア戦争を主題とするヘロドトスの『歴史』を取り上げる。テキストは岩波文庫の下巻である。最初にこの文庫本の上巻についている目次をコピーして、この作品が単なる戦争史ではなく、東西文明の衝突という大きな主題をもっていること、古代オリエントについての貴重な記述史料であることを概説する。次いでテキストを適宜朗読しながら私のコメントを加えていく。取り上げた内容は、ペルシア王クセルクセスの人物像、ペルシアの専制とギリシア人の自由の対比、テルモピュライの会戦、およびアテナイ人に対するペルシアからの降伏勧告とアテナイ人による拒否、サラミスの海戦とテミストクレスの策略、プラタイアの会戦、以上5つである。朗読にあたっては、ヘロドトス自身の地の文よりもむしろ、登場人物の会話や演説の箇所を重点的に取り上げた。

定期試験はこの5回の授業をふまえたものである。あらかじめ試験問題を配っておき、自分で答案を用意してくるよう呼びかけた。つまり時間をかけていい答案を書いてもらうためであり、実質的にレポートの性格をもつ。学生たちの多くは、ノートに答案を準備してきて、試験ではそれを答案用紙に書き写すことになる。この方式は他の授業と同じく、歴史が暗記科目ではないことをわからせ、なおかつテキスト自体をきちんと読んでこさせるために、かなり以前から採用している。

#### 【前期定期試験問題】

ヘロドトス『歴史』下巻について、以下の問に答えなさい。

と は必須、 と はどちらか一方を選択すること。

クセルクセスは優柔不断でありながら度量も大きいという、二面的な人物として描かれている。これら二つの性格を示すエピソードをそれぞれ一つ挙げ、合計7～10行程度で説明しなさい（末尾にカッコをつけて該当箇所の頁数を記すこと。例：23～24頁）

サラミスの海戦の前とプラタイアの会戦の前に、スパルタを中心としたペロポネソス軍が取ろうとした戦略には共通するものがある。その目的と内容を5～6行程度で説明しなさい。

ヘロドトスは何箇所かでギリシアの自由とペルシアの専制とを対比して描いている。そのうちの1箇所を取り上げ、彼が両者の違いをどのように述べているかを10行程度で要約しなさい(末尾に頁数を記すこと)。

プラタイアの会戦の前、ペルシア側がアテナイ人に降伏勧告をしてから、実際にスパルタ軍が出動するまでのアテナイ・スパルタ両国の関係を、使節たちの発言内容も含めて10行程度で要約しなさい。

#### 注意事項

- ・試験当日の持ち込みは自由。時間をかけて、いい答案を準備してくること。
- ・内容だけでなく、日本語力も採点の対象とする。
- ・テキストからの引用は、カギ括弧「・・・」を付けて正確に書くこと。要約の場合はカギ括弧は使わない(引用と要約の区別を明確に)。引用に頼りすぎる答案は減点。
- ・ミニレポートで注意した事項のうち、文体の統一という意味がわかっていない答案が少なくない。「ですます」調でなく、「である」調で書く。これが守られていない答案は大幅に減点する。
  - 「である」調      ~である      ~であった      ~した
  - ×「ですます」調    ~です      ~でした      ~しました
- ・答案用紙はB4サイズなので、ミニレポートのB5サイズに比べて、1行あたりの字数は約1.5倍になる。行数の指定は厳密なものではないので超過してもかまわないが、あまりに短い分量ではまずい。

#### 〔成績〕

成績は、2回のミニレポートの出来と定期試験の総合による。結果は次の通りである。

登録数 65 受験者数 28

S 0 A 10 B 6 C 7 D 5 R 37

受験者数が少ないので、この結果をどう評価するかは必ずしも容易ではないが、少なくともミニレポートの成績よりはましであり、かつAとBの合計が過半数に達するので、まあまあと言えるかもしれない。

以上が欧米文化 の前期授業の概要である。

なお後期は次の三つの柱からなる。ここでも朗読を主体とする方針に変わりはない。

ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の三つの宗教の基礎知識。テキストは、旧約・新約聖書とコーランをコピーする。留意点は、第1に旧約聖書では物語としての面白さに重点を置き、天地創造、アダムとエヴァ、ノアの洪水、バベルの塔、アブラハムのカナン定住、出エジプトを紹介する。第2に、イスラム教は同じ一神教であるユダヤ教・キリスト教の系譜に連なるものであることを示すこと、である。

渡辺一夫『フランス・ルネサンスの人々』（岩波文庫）をテキストにして、カルヴァンやイグナチウス・ロヨラなど世界史教科書でお馴染みの人物を取り上げる。ただし単なる伝記の羅列で終わるのでなく、渡辺一夫氏が終生力説してやまなかった、ルネサンスにおける寛容の精神をしっかりと学ぶ。

名前は超有名だがきちんと読まれることの少ない作品の代表として、マキアヴェリ『君主論』を取り上げる。テキストは佐々木毅『マキアヴェリと「君主論」』（講談社学術文庫）。このテキストを選んだのは、彼の生涯についての解説が非常に詳しいので、授業中に参照するのに便利だし、試験問題も作りやすいからである。

### 3 史学概論（史学科2年必修）

次に史学科必修科目の史学概論に移る。96年度から担当するようになって、今年で7年目になる。01年度からは日本史の菅野則子氏と二人で担当

しており、私が前期、菅野氏が後期という分担である。クラスによる振り分けはしておらず、学生はどちらの授業を取ってもよいのだが、早めに必修の単位を取ってしまいたいという心理からであろう、前期の私の方により多くの学生が集まっている。週2回の授業で前期で4単位である。

まず、4月最初の授業で配るプリントを転載する。内容は後に若干変更したので、ここでは実際に行なわれた授業内容にしたがって紹介する。

### 【プリント第1頁】

2002年度前期 史学概論 講義日程 森谷公俊(もりたに きみとし)	
4 / 17	オリエンテーション
19	福沢諭吉と啓蒙思想
24	植木枝盛と私擬憲法草案
26	中江兆民と民権思想
5 / 1	大日本帝国憲法と軍人勅諭
8	教育勅語と御真影(天皇・皇后の肖像)
10	国定教科書と歴史教育
	第1回ミニレポート 提出
15	石橋湛山と小国主義
17	柳田国男と民俗学
	第1回ミニレポート 返却
22	平塚らいてうと女性解放運動
24	津田左右吉と日本思想史
29	和辻哲郎と日本文化史
31	大東亜共栄圏とアジア
6 / 5	昭和天皇と15年戦争
	第2回ミニレポート 提出
7	日本国憲法の成立
12	サンフランシスコ講和と日米安保体制



- 14 教育基本法・教科書検定・家永教科書裁判 第2回ミニレポート  
返却
- 19 戦争責任と戦後補償問題
- 21 戦時性奴隷制と国際人道法
- 6 / 26 靖国神社と戦没者追悼
- 28 イスラム世界の基礎知識
- 7 / 3 中東現代史(その1): パレスチナ問題とイスラエル
- 5 中東現代史(その2): イラン革命、イラン・イラク戦争から湾  
岸戦争まで
- 10 9・11米国同時テロ事件をどう見るか: アメリカはなぜ憎まれ  
るのか
- 12 アフガニスタン戦争をめぐる: 報復戦争は正義か
- 7 / ? 定期試験

## 【プリント第2頁】

### 履修について

- ・史学概論は森谷担当の前期と菅野先生担当の後期の二つある。  
どちらを選んでもよしい。ただし、どちらが楽な授業であるかは不明。

### 単位について

- ・2回のミニ・レポートおよび7月の定期試験の総合評価による
- ・定期試験の成績が合格点に達しない場合は、ミニ・レポートの出来が決め手になる。
- ・ミニレポートを一度も提出しない者には、定期試験の受験資格を与えない。

### ミニレポートについて

- ・2週間前に課題を提示し、B5サイズの解答用紙を配布する。

- ・ 答案はすべて添削し、評価をつけて一週間ないし10日後に返却する。
- ・ 出来の悪い答案は何回でも書き直しを命じる。
- ・ 提出期限 第1回 5月10日 第2回 6月14日

#### 定期試験について

- ・ 問題は事前に公表する。持ち込み自由。そのかわり採点は厳しい
- ・ 指定したテキストを用いて解答してもらうという形式にする可能性あり
- ・ 正当な理由で欠席した場合は、教務課に申し込んで追試を受けること
- ・ 追試の問題は定期試験と同一とする

#### 授業について

- ・ 水曜は2時35分、金曜は1時に開始する。出席はとらない
- ・ プリントを配る時間が必要なので、5分前には着席していること

昨年度に単位をとれなかった3・4年生の諸君へ

- ・ 授業内容が大幅に変わり、レポート課題も試験問題も異なるので、昨年のノートはほとんど役に立たない。まじめに出席すること

履修科目届を必ず提出すること

授業中に携帯電話を鳴らした者は直ちに教室から退去することを命ずる

#### 【プリント第3頁】

##### この授業のねらい

史学概論といえば、普通は歴史学の歴史と理論を扱うことが多い。図書館の6階にある史学概論とか歴史学入門という名の本も、たいていはそうした内容である。しかしこの授業では、近現代の日本史を中心に扱うつもりである。専門としての歴史学ではなく、教養としての歴史学と

考えてほしい。その理由は、第1に、史学科には日本の近現代史を専攻する教員がないこと、第2に、学生諸君の大半は、将来必ずしも歴史学とは関係ない分野に進むこと、第3に、諸君が21世紀の日本と世界を建設していくのに必要な基礎的な知識と思考力を身につけてもらいたいこと、以上である。

#### 授業の構成

具体的には、次の3つの柱からなる。

明治から昭和前半までの日本の思想的遺産を学ぶこと。

国家体制および戦争と、教育とりわけ歴史教育との関係を明らかにすること。

20世紀の日本が積み残した戦争責任の問題や、米国テロ事件とアフガン戦争後の世界を考えるための、基礎的な学習をすること。

#### 授業の具体的方法

テキストや史料をびっしり盛り込んだプリントを配布し、それを朗読しながらコメントを加えていく。日本語の原典を自分の目でしっかり読んでもらいたいからである。

ミニレポートと試験の問題は、そうしたテキストの読解力を試すもので、歴史の試験というより国語の試験というべきかもしれない。その際、各人の価値観に立ち入るような問題は避けるつもりである。(上の は政治的判断を要するテーマなので)

森谷研究室：短大2号館地階

0426 - 78 - 3486 (直通)

オフィスアワー：火曜5限・水曜5限・金曜4限

研究室内は絶対禁煙(煙草を吸うヤツとは個人的つきあいを一切しない)

以上が最初に配ったプリントである。第1頁で日程と授業ごとの内容を

記し、第2頁でこの授業の履修に必要な事項を列挙し、第3頁で授業の趣旨、このような内容を選んだ理由を記述してある。これで私の方針は明確に示すことができたはずである。

なお携帯電話については毎年厳しく注意しているので、今年は200人以上の受講生がいながら、一度も携帯は鳴らなかった。これは画期的なことである。ただしメールを見ている学生を注意したことはある。私語をしている学生を見つけたら、即刻マイクで「後ろから2列目の赤いシャツの男子、静かにしなさい」というように、座席や服装で特定できるように注意している。しかし後ろの方が全体にざわざわしていることがしばしばあった。

#### 〔授業の進め方〕

毎回B4サイズの両面印刷したプリントを少なくとも2枚配る。時には3枚を越える場合もあるが、前半の近代日本思想史に関しては2枚にとどめている。これ以上だと丁寧な扱う時間がなくなるためである。

近代日本思想史の場合は、プリントは次のような構成をとる。1枚目の左側にその人物の年譜と参考文献を記す。年譜は簡単な経歴と主な著書からなり、これを見ればその人物の主要な著作がわかるようにしてある。1枚目の右側には、高校教科書から、その人物に関する記述をコピーして切り貼りする。とくに福沢・枝盛・兆民・らいてう・和辻などは、日本史よりも倫理の教科書に詳しく書かれているので、高校倫理を活用する。1枚目の裏と2枚目の両面は、その人物の著作の抜粋である。たいていは岩波文庫のコピーを上下2段にびっしりと切り貼りする。一人の思想家を1回の授業で紹介し、抜粋を読み上げるにはこれで十分である。私がそれを朗読しながらコメントしていく。したがって歴史というより半ば国語の授業のようだ。

思想家を扱うのでない授業、つまり帝国憲法や教育勅語、15年戦争から戦後史に至る部分では、ひたすら関連史料を切り貼りしてプリントを作る。紹介したいものは沢山あるので、時には両面印刷のプリントが3～4枚に達する場合もある。最高は米国同時テロ事件を扱った時の7枚、つまり14

頁分だった。

このように、私の史学概論はひたすらプリントを読むことなので、授業の準備といえはとにかくプリントを作ることに尽きる。文庫本のコピーを10枚も20枚もとり、それを切り取り、B4の紙にきれいに収まるように並べて糊で貼る。それから見出しを付け、番号をふり、傍線を引き、むずかしい漢字にはふりがなを書き込んだりしてようやく原稿が完成する。前日の夜に切り貼りが終わると、授業はもう半分以上終わったような気分になるほどだ。あとは簡単。それを250枚ばかり印刷して、教室で配り、読み上げればよい。

#### 〔プリントの内容例〕

以下では、いくつかの授業を例に取り、プリントの内容を簡単に紹介しよう。なおテキストの書名は本来は二重カギ括弧に入れるべきであるが、煩わしいので、ここでは一重のカッコを用いる。

#### 〔福沢諭吉と啓蒙思想〕

- ・「学問のすすめ 初編」より冒頭部分
- ・「文明論之概略」巻之一第2章「西洋の文明を目的とする事」から、野蠻・半開・文明の三段階論、および「自由の気風はただ多事争論の間にありて存する」とする箇所
- ・「文明論之概略」巻之五第九章「日本文明の由来」より、日本社会における権力の偏重を指摘した箇所、および新井白石に言及して「日本国の歴史はなくして、日本政府の歴史あるのみ」と述べた箇所
- ・「学問のすすめ」三編「一身独立して一国独立する事」より第一条
- ・「女大学評論」より、女性に関する封建道徳批判の例を二つ
- ・「脱亜論」および「日清の戦争は文野の戦争なり」(『歴史学研究会編『日本史史料 4 近代』岩波書店、による)
- ・脱亜論に関連する新聞記事として

安川寿之輔「福沢諭吉 アジア蔑視広めた思想家」(朝日新聞01年4

月21日「私の視点・ウイークエンド」より)

平山洋「福沢諭吉 アジアを蔑視していたか」(朝日新聞01年5月12日「私の視点・ウイークエンド」より)

- ・安川氏が自説の根拠としている記述として、「学問のすすめ」と「文明論之概略」から各数行を添える

以上が福沢に関するプリント2枚半の内容である。ただ啓蒙思想と脱亜論を一度に扱うのは無理があり、安川寿之輔氏の説の紹介が中途半端に終わってしまった。脱亜論は、日清・日露戦争時の日本人のアジア認識と合わせて、独立した内容にするのが良さそうである。

#### [ 平塚らいてうと女性解放運動 ]

「平塚らいてう評論集」(岩波文庫)の解説において、編者の米田佐代子氏は、らいてうの思想の発展段階を4つに整理している。これに沿って同評論集より次の箇所を抜粋した。

- ・「元始女性は太陽であった」の一部
- ・「独立するについて両親に」より、奥村博との共同生活を始めること、ただし形式上の結婚はしないこと、子供を造るつもりのないことを述べた箇所
- ・「『個人』としての生活と『性』としての生活との間の闘争について(野枝さんに)」より、母性の自覚と出産の決意を述べた箇所
- ・「母性保護の主張は依頼主義か」「母性保護問題について再び与謝野晶子氏に寄す」より、母性保護の社会的国家的意義を主張した部分
- ・「社会改造に対する婦人の使命」より、人類の改造こそ最も進歩した婦人運動の要求であることを宣言した部分
- ・「子供を成城小学に入れたことについて」より、国定教科書への嫌悪感を表明した箇所
- ・「婦選運動者へ」「婦人戦線に参加して」の一部
- ・「非武装国日本女性の講和問題についての希望事項」
- ・「憲法を守りぬく覚悟」より

関連する新聞記事として、森まゆみ「人間らいてうスリングに：初の本格的伝記映画を見て」（朝日新聞02年5月10日夕刊）——これは、折から岩波ホールで上映されていた、羽田澄子監督「元始、女性は太陽であった——平塚らいてうの生涯」に対する論評である。

女性史を取り上げると、どうしても自分のことを棚に上げて話すわけにはいかなくなる。そこでらいてうが法律上の結婚を拒否したことに関連させて、私自身も婚姻届を出さない事実婚をしたことを話し、さらに妻の流産の経験や離婚といった超プライベートなことまで話してしまった。ついでに夫婦別姓法案をめぐる国会の動きとか、結婚することを「入籍」というのは法律的には誤りであって、正しくは「婚姻届を出す」ということ、「入籍」は生まれた子供を戸籍に入れる時に使うことばであること、なども話しておく。結局こういう話題にかなりの時間を費やしてしまった。しかし学生たちにはこういう種類の話をきちんとしておいた方がいいのではないだろうか。

#### [教育基本法・教科書検定・家永教科書裁判]

まず導入として、私自身と教科書との関わりについて述べる。

日本史研究者の家永三郎氏が1965年に起こしたいわゆる家永教科書裁判は、1997年まで実に32年間にわたって続けられたが、私はその後半の16年間支援運動に参加して裁判の傍聴にも通い続けた。私に歴史学の何たるかを教えてくれたのは、ほかならぬこの裁判運動である。その16年のあいだに、私自身も大学院生から助手となり、専任の教員となった。そして現在は中学歴史教科書および高校世界史教科書の執筆者として、また新たな形で教科書にかかわっている。中学歴史の従軍慰安婦にかかわる記述が政治的攻撃を受けた時、最大の標的とされたのが私の参加している教科書であった。

それゆえ教科書問題および家永裁判は、歴史研究者としての私の信条に直接かかわる事柄であり、史学概論の中でこの問題に触れることは絶対不

可欠である。もしこのテーマを語らないとしたら、これは自分の授業ではなくなってしまう、そのくらい私にとって重要なテーマなのである。

プリントの内容は次の通りである。

- ・ 年表：戦後教育体制の成立・逆コースと教科書統制・家永教科書裁判の3つの柱に分けて作成。
- ・ 学習指導要領一般編(試案)(1947年、文部省発行)より、戦前の教育への反省と、今後の指導要領は教師自身が研究していくための手引きであることを明記した箇所
- ・ 「うれうべき教科書問題」(1955年、日本民主党発行のパンフ)より、第二部 教科書にあらわれた偏向教育とその事例
- ・ 池田・ロバートソン会談覚書(1953年)より、愛国心の成長を米国側に約束した箇所
- ・ 家永三郎「教科書裁判」(1981年、日本評論社)より  
1957年度の不合格理由を伝える文書  
1963年度検定における不合格理由・修正強要の代表例として、古事記・日本書紀の記述に対する介入、太平洋戦争について「無謀な」という言葉を削除させた例、太平洋戦争下の国民生活の記述が「暗すぎる」のもっと明るく書けと強要した例  
戦争中に自分一個の良心を守るのに専念し、悲劇をくいとめるために何一つ抵抗しなかったことへの反省から、あえて裁判闘争を選んだことを語った箇所
- ・ 家永教科書裁判・第二次訴訟一審判決(杉本判決、1970年)の判決文より、国民の教育権、国の条件整備義務、人間の内面的価値に対する国家の中立性、教師の教育の自由に言及した部分
- ・ 第三次訴訟二審判決(1993年)の判決文より、中国婦人に対する日本軍の貞操侵害行為の記述について、検定意見を誤りとした箇所
- ・ 第三次訴訟最高裁判決(1997年)の判決文より  
731部隊の記述に対する検定意見を誤りとした箇所  
大野正男裁判官の少数意見(司馬遼太郎とヴァイツゼッカー大統領



の言葉を引用)および千種秀夫裁判官の少数意見(日本に恥となる所業でも若い世代に正確に伝えることが必要)

5人の裁判官の争点ごとの判断の一覧表(支援団体のパンフより転載)

教科書裁判の話のあとは、必ず次のように述べてしめくくる。

「今日の授業で聞いたことは、教員採用試験のときには全部忘れなさい。」

学生の半分は大笑いするが、残りの学生は、「エッ、そんなこと言っているの?」といったような怪訝な顔つきでキョトンとしている。私は文部科学省なんか知らない、などと少々過激なことも平気で言うので、教員採用試験で私のマネをしたら不合格は間違いない。というわけで、笑ってる学生はその辺の事情が理解できているわけだから大丈夫。問題は笑えない学生たちだ。こんな危険な話を聞いてしまっていいのだろうか、という不安そうな表情を浮かべている。しかし、文部科学省とは真っ向から対立する考え方もあることを、きちんと知ってもらいたい。これもショック療法のひとつと言えよう。

本来ならすべてのプリントを同様に紹介すべきであるが、あまりにも多量になるので他は省略する。

次に2回のミニレポートについて。第1回の時には、添削チェックリストを付けたが、これは欧米文化の場合と同じなので、ここでは省略する。

#### 【第1回ミニレポート課題】

中江兆民『三酔人経綸問答』のプリントについて、次の2つの問の両方に答えなさい。

問 紳士君が、民主制は戦争の放棄と平和につながると主張するのは、いかなる理由によるか。プリントの の後半(下段)から にかけての論旨を整理するかたちで述べなさい。 だけを要約するのは不

可。8～10行程度で

- 問 豪傑君が奪おうというアジアの国とは、⑰の南海先生の議論に照らし合わせると、中国であると考えられる。豪傑君は中国侵略がなぜ日本にとって有益であると主張するのか。プリントの から⑬にかけての内容を要約するかたちで述べなさい。なお、「昔なつかし」と「新しずき」という言葉は、別の適当な用語に置きかえること。
- これも8～10行程度で

#### 注意事項

- ・感想や意見を求めているのではない。あくまでもテキストの内容を正確に読み取ることが課題である
- ・テキストの引き写しでなく、自分なりのことばで書くこと
- ・行数はあまり厳密に考えなくてよい。2～3行超過するくらいは許容範囲
- ・内容だけでなく、日本語力も採点の対象とする
- ・出来の悪い答案には、何回でも書き直しを命じる

提出締切 5月10日（金）

返却予定 5月17日（金）

- ・同一の答案が2枚以上ある場合はカンニングと見なし、昨年度の課題で再提出させる（毎年必ず1～2件起きる）
- ・返却のさいに徹底追求して「自白」させるので、そのつもりで
- ・友人同士で相談するのは構わないが、答案を書くときは自分一人の力で書くこと
- ・教師は毎年何百枚という答案を見て慣れているのだから、カンニングを発見するのは実に容易なことである。とくに森谷の眼をごまかすことは200パーセント不可能であると断言しておく

## 【第2回ミニレポート課題】

次の と のどちらか一つを選んで答えなさい。(いずれも15行程度)  
石橋湛山のプリントについて

⑮の末尾で石橋は、「大日本主義を固執すればこそ、軍備を要するのであって、これを捨つれば軍備はいらない」と述べている。その理由は何か、「一切を捨つるの覚悟」と「大日本主義の幻想」の内容を総合して、軍事的側面と道徳的側面の二つの面から明らかにしなさい。最初に大日本主義の内容(授業で述べた)を簡潔に記すこと。

なお 垣 とか 燃え草 といった比喩的表現は避けること。

平塚らいてうのプリントについて

「母性保護の主張は依頼主義か」の末尾において、らいてうは、「婦人が・・・国家の保護を求めるのと『老衰者や廃人が養老院の世話になる』のと同じに論じるのは間違っている」と述べている。その理由は何か、「母性保護問題について再び・・・」の評論も合わせ用い、与謝野晶子の主張と対比しながらまとめなさい。

テキストからの直接の引用は最小限にとどめること。

- ・ 末尾にこれまでの授業の感想、今後の要望を自由に書いてください。  
批判・提案、大歓迎
- ・ 注意事項は前回と同じ。
- ・ 出来上がった答案をチェックリストと照合しながら見直し、文章を改善すること。(段落の最初は一字あけるといったことは、小学校で習ったはずである。)

提出期間 6月5日(水)から14日(金)まで

返却予定日 5日・7日提出のもの 12日返却

12日・14日提出のもの 17日返却

(枚数が多い場合は19日に延びる可能性あり)

以上が2回のミニレポートの課題である。内容はテキストをいかに正確に読み取って適切に要約できるかを問うもので、最初に述べたように、歴史よりむしろ国語の試験という趣である。240人ほどが提出したが、特に第1回時はその約8割に書き直しを命じた。中には3度、4度と再提出させた者もあり、私が添削した枚数は全部で800枚以上に達するだろう。しかしいくら厳しい添削をしても、喉元過ぎればというように、夏休みが終わると元の木阿弥に終わる場合が多い。200人を越える学生にまじめに文章指導をするのが土台無理な話であって、結局ショック療法以上ではないと言わなければならない。それでも学生にとって、自分の日本語がいかにでたためであるかをガツンと思い知らされることは、学生時代に一度は経験しておくといいだろう。卒業したら、こんなに細かくチェックしてくれる人はいないのだから。

次に定期試験について、課題は6月末から7月にかけての授業から出した。あらかじめ問題を公表するので、学生は答案を用意してきて、試験場でそれを答案用紙に書き写すことになる。これは欧米文化IIの場合と同じである。

#### 【定期試験問題】

授業のプリントを用い、次の問について論述しなさい。

は必須、 と はどちらか1つを選択すること。

中村政則「憲法第九条と天皇制」は、日本国憲法における象徴天皇と戦争放棄の規定はワンセットであったと結論している。中村氏はその根拠をどのように説明しているか、マッカーサーの意図を中心に7～10行程度で整理しなさい。プリントの傍線部を写しただけの答案は不可。

靖国神社参拝についての小泉首相の談話・所感を15行程度で検討しなさい。

01年8月13日の談話、02年4月21日の所感のどちらか一方または両方を取り上げ、どの箇所がどう問題なのか、問題ないならその理由は何かを述べる。そのさい、次の論点のなかから少なくとも2点を取り上げること。結論ではなく、論証の過程を採点の対象とする。

- a. 15年戦争と靖国神社とのかかわり
- b. 現行憲法の政教分離規定と首相の靖国参拝との関係
- c. 国家による戦没者追悼のあり方、またはその是非
- d. アジア諸国の戦争犠牲者と戦後処理にかかわる諸問題

昨年米国同時テロ事件およびアフガン戦争に関連して、次の4項目のなかから1項目を選んで15行程度で論述しなさい。

a・b・cについては、まずその事項を説明し、次にそれが9・11同時テロとどのように関係しているかを明らかにすること。

プリント中の高校教科書・辞典・年表を丸写しただけの答えは不可。

- a. 第2次大戦後のイスラエルとパレスチナ問題
- b. イラン革命から湾岸戦争を経て今日にいたる湾岸情勢
- c. ソ連侵攻から同時テロ事件までのアフガン情勢とタリバン
- d. アメリカによるアフガニスタン攻撃は正当であるか否か(結論自体は採点の対象としない)

#### 注意事項

- ・ と については、プリントで紹介した学者の論評を大いに利用してよい。そのさい、誰の見解を使ったのか、それを支持するのか批判するのかがわかるように書くこと。

- ・ プリントで紹介した参考文献のなかで自分で読んだ本があればもちろん活用してよい。

末尾に出版データを明記し、利用した形跡がわかるように書くこと。

例：田中伸尚『靖国の戦後史』岩波新書、2002年、15～16頁（あるいは第1章）

- ・ プリントからの引用はカギ括弧「・・・」を付けて正確に書くこと。要約の場合はカギ括弧は使わない(引用と要約の区別を明確に)。引用

に頼りすぎている答案は減点。

- ・ミニレポートで注意した事項のうち、文体の統一という意味がわかっていないレポートが少なくない。「ですます」調でなく、「である」調で書くこと。これが守られていない答案は、容赦なく減点する。

○「である」調      ~である    ~であった    ~した

×「ですます」調    ~です      ~でした      ~しました

- ・答案用紙はB 4サイズなので、ミニレポートのB 5サイズに比べて、1行あたりの字数は約1.5倍になる。行数の指定はおよその目安なので超過してもさしつかえない。ただしあまりに分量が少ないのは良くない。

問題文にも書いておいたが、 と は学生自身の政治信条や価値観に深くかかわる問題なので、結論の当否は問わず、論証の出来具合で判断した。結果は、たとえば私の見解とは逆に、米国のアフガニスタン攻撃を妥当とする答案が何枚もあったが、史料を引用しながら丁寧に議論した答案にはAをつけ、単なる感想にとどまっている答案にはCをつけた。これはアフガニスタン攻撃を不当であるとする答案の場合も同様である。

#### 〔成績〕

成績は2回のミニレポートと定期試験の総合によった。結果は次の通りである。

登録数 250      受験者数 218

S 5      A 96      B 96      C 10      D 11      R 32

参考までに2001年度の成績も併記する。

登録数 249      受験者数 204

S 9      A 72      B 82      C 10      D 31      R 45

2年続けてほぼ同じ傾向を示している。SとAの合計は01年が81人で受験者の40パーセント、02年が101人で受験者の46パーセントである。ミニレ

ポートではAが非常に少なくCが続出したのに比べると、大幅に向上している。これは私の採点が甘くなったのでは決してない。学生たち自身がミニレポートの厳しい採点を真面目に受けとめ、いいかげんな勉強では森谷に通用しないことを自覚して、真剣に定期試験に臨んだ結果である。その限りでは、ミニレポートのショック療法の効果がおおいにあったと言えるだろう。

最後に学生たちの感想であるが、今年度は第2回ミニレポートに感想を書いてもらったため、7月の授業アンケートに感想を書いた学生は非常に少なかった。全体として好意的に受けとめてくれており、私としては特に修正する必要はないと考えている。したがって来年度もこの路線を続けるつもりである。ただ少数ながら、私の政治信条それ自体に批判的な学生もあり、中にはこの授業は政治活動だと糾弾する意見もある。そうした批判に対しては、可能なかぎりミニレポートに返事を書いて返却し、私の考えを理解してもらうよう努めたつもりである。

今年度のミニレポートに添えられた感想は一切記録していないので、ここでは少し古い99年度および2000年度の授業アンケートの自由記述欄を紹介したい。教務課で閲覧した際にすべて書き写し、翌年度の最初の授業でプリントにして配ったものである。各意見に対して私のコメントが記しており、私の授業方針を理解してもらうのにも好都合であろう。

〔1999年度前期 史学概論授業アンケート・自由記述欄より〕

は肯定的意見、 は否定的・批判的意見  
は私からのコメント

概論で何なのかわからない

この授業の必然性・意味が理解できない

授業の意図・ねらいについては最初の時間に説明した。この時出席

していなかったのではないのか。

授業の内容で何を言わんとしているのかわからない

余談が多くて内容がさっぱりわからない

授業内容は、大筋の説明と若干の例示を二本柱としている。余談と本筋との区別をつけるのも学力のうち。これができないようでは情けない。

レベルが高すぎて理解できない

バカな自分にはわからない授業である

わからない箇所があるなら、なぜ質問に来ないのか。わからないままに放置しておくようでは学力は伸びない。また毎回多くの参考文献を紹介しているのだから、わかるように自分で努力すべきである。

口で言うのでなく、黒板に書いてほしい

黒板に単語だけでなく、もう少しそれに関する説明も書いてほしい

黒板の書き方がいろいろ飛んでいてわかりにくい

先生が板書するのをノートに写すだけというやり方では小学生並みである。まして「ここは重要だからノートしなさい」などとは私は絶対に言わない。重要な箇所は繰り返し述べるから聞き分けられるはず。話を聞きながら自分で要点をメモするのが大人のやり方である。自分で意識的に訓練してもらいたい。

板書もテキストもないので授業に出ていないと内容がさっぱりわからないが、そのことがかえて出席を高めていると思う

的を射たコメント。鋭い観察眼に敬服する。

プリントが多くてファイルしていくのが大変

就職すれば、整理しなければならない資料は毎日膨大にある。

この程度のプリントで悲鳴をあげるようでは将来困るヨ。

政治的なかたよりがあるのは自由だが、もう一方もしっかり講義してほしい

小生とは価値観がかなり違っているので、おもしろいです

授業が左に曲がっているが勉強には役立つ



左に傾いている様にも思えるが、自分の意見・考え方が広がるので非常に勉強になっている

歴史学と価値観とは切り離せない関係にあるので、政治的に完全に中立の授業などそもそもありえない。もちろん時間の許すかぎり異なる見解も紹介するが、私自身の価値観や立場を明確にすることは授業内容を正確に理解してもらう上でむしろ不可欠であるし、研究者としての最低限の義務でもあると考えている。なお試験においては、政治的立場が直接反映するような問題は出さないことにしている。

先生と学生とで討論があった時はとても興味深かった

6月1日の授業終了後、男子学生二人が研究室に来て、15年戦争について意見を述べてくれた。そこで私の方から公開討論を提案し、6月4日の授業で私と二人の間で意見の交換を行なった。それが終わると、別の男子学生がユーゴ空爆についての私の見解に反論したいと申し出たので、彼にもマイクを渡して論争を行なった。公開論争は大いに歓迎するので、授業内容についての意見や反論のある方は積極的に申し出てほしい。

先生が神経質すぎる。広い心で授業してほしい

何をもって「神経質」というのか、説明がないのでわからない。携帯や私語をいちいち注意することを指すのだとすれば、授業中の教室を静穏に保つのは教師としての義務である。授業の邪魔になることに対して、おおらかにはなれない。

男の子にも優しくしてください

成績評価において男女差別にあたるようなことはしていない。

(プライベートな次元についてここでコメントする必要はない)

日本史・西洋史を交互にやっているのだから、全く興味あるコトもさわりでおわっちゃうので意味がない

この授業は日本史や西洋史の寄せ集めではない。歴史学の基本的な考え方・論理を説明しているのであって、そのための材料をさまざま

まな時代や地域から取り上げているのである。毎回多くの参考文献を紹介しているのだから、興味があるなら自分で勉強すべきである。そもそも授業ですべてを教えることなどできるはずがないし、何でも授業で教えてほしいなどと思うのは甘ったれている。

高校時代から疑問に思っていた事などが授業でとりあげられる事が多く、「これを言いたかった」という事が学べてとてもおもしろいです  
史学科の授業の中で一番わかりやすく興味深い

けっこうおもしろい、楽しい

いろんな資料をくばって授業してくださるので難しいですが、毎回テーマが決まっていてそれを詳しく述べてくださるので大変勉強になる授業だと思います。

〔2000度前期 史学概論授業アンケート・自由記述欄より〕

は肯定的意見、 は批判的意見(泣き言を含む)、 は提案を含む意見

は私からのコメント

はじめのうちは授業の内容の意味がよく理解できないでいましたが、回を重ねることによって授業の意義がわかってきた気がします。

自由主義史観について思うところがあればとりあげてほしい。

今年度はきちんと取り上げる予定です

内容的には難しいかもしれないが、歴史的に物事を考えるという意味では大変興味深い講義である。

授業内容が大変意義深く、教養の充実に役立つ。

最初の頃は授業内容にとまどうこともあったが、全体として面白かった。授業中とても静かなので集中して取り組めた

先生が授業に力を入れてくれているのがよくわかる。今までうけた史学科の授業の中で一番ためになったと思う。ただ授業でとりあげる思想

家が大塚久雄や丸山真男など左翼っぽい人物が多いのが不満だった。かたよった思想ばかりでなく全般的な思想も紹介してほしいです。

「左翼的」な思想家を取り上げたのは、戦後歴史学にマルクス主義の影響がきわめて大きかったからである。ただし大塚久雄を「左翼」呼ばわりするのは見当はずれ。「全般的な思想」とは何のことか不明。

「公正中立」な思想など存在しないというのが、この授業のポイントである。

一口に言えば「歯ごたえ」のある授業でした。ぬるま湯の中に一つある熱湯の温泉——そんな考じがします。時々生徒を見下した発言が気になりましたが、どれをとっても大学らしい授業だと思えます。

我思は無

ただの落書き？

レポートのたびにかわされる本のかねをかいしてほしい。

本は自分のお金で買わないと身につかないものである。電話代を節約せよ。

ミニ・レポートはきついです。一ヵ月で本をよみきるのはいんどいです。もうちょっと期間がほしい。

たかが200頁程度の本が一ヵ月で読めないようでは学生に値しない。こういう泣き言を聞かされると、ますます厳しくしてやろうという気になる。

テストはやさし目に作って下さい。ミニレポートはもう少しやさしく点数をつけて下さい。

やさしい課題では頭の訓練にならない。

評価がきびしいのはショック療法を兼ねているため。卒業したら文章をきちんと直してもらう機会はないから、今のうちにガツンとやられておく方がためになるはず

レポートをもっと出してほしかった。

添削する方も大変なので、3回が限度でしょう。

レポートをやり遂げるのが非常に困難であると思う。

これ以上ミニレポートについての泣き言は受け付けない。

きめ細かな分析のおかげで見えない部分が見えるようになってきた。観察力と洞察力が磨けるいい授業だと思う。

この授業は一年の時にやってもらった方が歴史学の勉強の仕方、考え方が身について専門科目をやっていく上でよかったのではないかなと思う。とても丁寧に文章指導をしていただけるのでとてもためになった。

理解できる話もあったけれど、難しい話の方が多かった。2年じゃなく3年でこの授業をやった方がいいんじゃないかなと思う（もう少し色々勉強してからの方がいいと思った）。レポートはつらかったです、本当に。もう少し読み易い本にしてほしかった（特に「国民経済」は読みにくかった）。

（注）この年は、大塚久雄『国民経済』（講談社学術文庫）をテキストにして、ミニレポートの課題を出した

各種のプリントが配られ、いろいろの考えが示されるたびに、結構興味をそそられる時があり、自分の考えをぶつからせることができるのでそれなりに楽しい。

授業内容については現代に生きるものとして非常に考えさせられます。帝京大学にはもったいのない先生だと思います。授業中に携帯電話をならすようなサル共を相手にご苦労さまです。

お褒めのお言葉、もったいのうございます。

今のところ他大学からのお誘いはないので、まだ当分は帝京にいそうです。

この授業はただ話を聞いているだけでは無益なだけではなく有害であるから、授業で取りあげられた内容を自分で見直し、再考する必要性に迫られるので、大変有益な講義である。厳しすぎ

授業を鵜呑みにするのでなく、批判的に聞いてくれることは大歓迎。

反対意見があればぜひとも論争を挑んでほしい。

この授業を受けたことで、自分の中の歴史学の感覚がガラッと変わった。

大変意義のある授業だと思う。

自分の知らなかった歴史的考察の観点や色々な本を教えてもらえる有難い授業。強制的に読まれた本も結果として非常に役に立ち、示唆に富んでいた。またレポートをちゃんとチェックして返してくれる等、最も教師的な先生だと思う。

先生の授業は今まで経験したことのない歴史の授業で大変興味深かったです。これからは是非先生の授業をうけてみたいです。添削していただいてありがとうございました。

私の専門の授業はもっと大変ですよ。

先生の授業は毎回本当に自分の思考にやくにたつものばかりです。すごく自分のためになっていると思います。授業の方法もものすごくわかりやすいです。今からの将来においていつかきっと役立つものばかりであるので、毎回の話を真げんにきいています。とくに沖縄の戦争の話はすごくためになりました。戦争の無益さをかみしめました。

教師冥利につきるとはこのことか。涙、涙……（笑）